

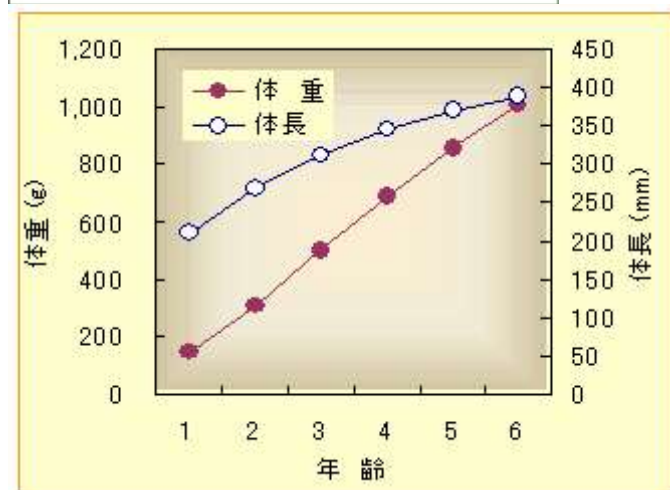
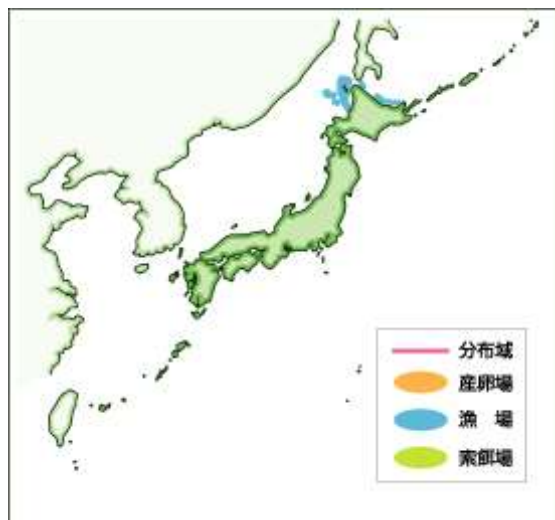
ホッケ *Pleurogrammus azonus*

道北系群（留萌以
北+オホーツク） 担当：北海道区水産研究所



生物学的特性

- 寿命： 8～9歳
- 成熟開始年齢： 1歳の終わり頃（満2歳直前）
- 産卵期・産卵場： 9月中旬～11月上旬
利尻・礼文島の沿岸および武蔵堆の最浅部で産卵
- 索餌期・索餌場： 稚魚・幼魚期に主としてオホーツク海の表層で生活し、着底後に
大部分は日本海へ移動
- 食性： 仔魚期には主にカイアシ類、表層回遊期には主にヨコエビ類、未
成魚期には底棲性のヨコエビ類を多く捕食
岩床周辺で定着生活に移行後は、様々な種類の動物を捕食
- 捕食者： 不明



漁業の特徴

ホッケ道北系群は、沖合底びき網（沖底）、刺し網、底建網、およびまき網などによって漁獲される。漁獲量の大半は、オホーツクと留萌以北のいずれの海域においても、沖底によってあげられており、近年は総漁獲量の約8割を沖底の漁獲が占めている。

漁獲の動向

ホッケ道北系群の総漁獲量は、1983～1985年には27,000～32,000トンであったが、1986年から増加に転じた。さらに1997年級群が卓越年級群として出現したことにより、1998年には193,000トンと過去最大のレベルに達した。その後再び漁獲量は減少し、2000年は127,000トン、2001年には113,000トン（暫定値）であった。



資源評価法

沖底の漁獲量が系群全体の漁獲量の8割を占めており、かつCPUEの変動が漁獲量の推移と良く一致することから、沖底漁獲量およびCPUEが当該資源の動向を代表すると考えた。また非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準ならびにMSYを与える漁獲死亡係数、漁獲努力量などの推定を行った。

資源状態

過去22年分（1980～2001年）の沖底CPUEの推移から資源水準を、また過去5年間（1997～2001年）の沖底CPUEの推移から資源動向を判断した。1993年以降、CPUEは増加傾向にあり、2001年の資源水準は高位と判断した。また過去5年間のCPUEは3～4トンの範囲で推移しており、資源動向は横ばいと判断した。

水準 動向



管理方策

資源水準、動向ともに好適な状況にあることから、今後も当該資源の生産力を十分に利用し、漁獲量および資源量を高水準に維持することを目標とした。FlimitおよびFtargetを達成する漁獲努力量を推定し、それに推定されたCPUEを掛けて予想漁獲量を算定して、それぞれABClimitおよびABCTargetとした。

管理基準		A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	Fmsy	190,000	51%	0.51
A B C target	0.7Fmsy	133,000	36%	0.36

F値は各年齢の単純平均

漁獲割合 = ABC / 資源重量

資源量は1月の値

資源評価のまとめ

- 過去22年分の沖底CPUEの推移から資源水準を、過去5年間の沖底CPUEの推移から資源動向を判断
- 非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準などを推定
- 資源は高水準、横ばい傾向で好適な状況

管理方策のまとめ

- 漁獲量および資源量を高水準に維持することを目標
- FlimitおよびFtargetを達成する漁獲努力量を推定し、それらに推定されたCPUEを掛けた予想漁獲量をABClimitおよびABCtargetとした